

## 職場体験始めます。 「段階を踏んで『働く場づくり』へ」

知的障がい児5名が、カレーハウスココ壺番屋で職場体験を開始します。この企画は、障がい児が働くことの意味を複数回の体験を通して段階的に学ぶもので、養護学校などでなく、市民活動団体が職場体験を企画・実施するのは豊田市では今回が初めてです。

初回は10月26日（日）14:00～17:00、場所はカレーハウスココ壺番屋豊田田中店で行います。それ以降、11月24日（月）、12月14日（日）も同じ時間、場所で行う予定。

この職場体験の参加者は、養護学校に通う16歳～17歳の知的障がい児で、卒業後は社会人として働く彼らに、社会人になる目前のこの時期に働く意義を考えてもらうために企画しました。また現在、養護学校などで行う、単発の体験でなく、継続して職場体験を行うことが障がいのある彼らにとって、働く意義を習得するのにより有効であると考え、「継続すること」にこだわりました。

今後、当会は障がい児が養護学校卒業後の働く場として、平成22年に飲食店の開店を計画しており、その計画に合った職場体験を行いたいと、1年ほど前から、ボランティアとして活動に参加していた株式会社ワイズ（本社小牧市）の社員に相談しました。ワイズは豊田市内で5つのカレーハウスココ壺番屋を経営する企業で、当会の働く場設立資金づくりのための募金箱設置に協力するなど活動に関心をもっていただくため、「カレーハウスココ壺番屋での職場体験なら協力できる」と判断していただき、接客業務などの指導を含む継続的な体験が実現しました。

また、「職場体験をその時だけではないものにし、将来の働く場づくりに活かしたい」という強い思いからまずは互いのことを知り、職場体験のカリキュラムづくりの参考にするという目的で、今年8月5日に職場体験プレ企画を実施。このプレ企画では開店前の清掃や接客の模擬体験を行いました。この体験から個々の障がい特性を知って仕事を組み立てることが、障がい児の働くことをサポートすることにつながることを学び、職場体験を2つのステージに分けることにしました。10月～12月は「職場体験1stステージ」とし、お客様の出迎えからオーダー、食事の提供、片付けまで全ての仕事を行い、個々の特性にあった仕事を見つける。その後それを基に、個々の特性に合った仕事を更に習得する「職場体験2ndステージ」に移行し、「オンリーワンを極める」をテーマにそれぞれの個性に合わせた働き方を見つけ、障がい児本人が働く楽しさ、厳しさを習得していけるように展開していく予定です。

8月5日に行われた職場体験プレ企画の様子  
開店前の準備として、テーブルの清掃とセッティングをする参加者



「いらっしゃいませ」「ありがとうございます」など、接客用語の発声練習する参加者たち

